

「海外に子ども用車椅子を送る会」を 支援してくださる皆様へのお願い

いつも当会の活動にご理解をいただき有難うございます。皆様のご支援のおかげで活動開始以来 19 年目を迎えることができました。御礼を申し上げます。

2 年以上にわたるコロナ禍のために当会の活動は大きく制限されています。特に、これまで多くのボランティアにお願いしてきた、使われなくなった子ども用車椅子の清掃・整備・安全確認の作業がコロナ禍の下でほとんどできなくなりました。

一方で、特別支援学校からはほぼ例年並みの車椅子の提供があり、届いた車椅子で当会の倉庫があふれる状態になっています。また、海外のパートナーも日本同様に活動に制限を受けていて、車椅子を受け取ることができない状況です。

そこで、いくつかの海外パートナーと相談し、車椅子を未整備でも受け取ってくれるところに送る作業を始めています。受け取った車椅子を自ら清掃・整備・安全確認して子どもたちに届けることができるパートナーに送る活動です。

海外の子どもたちに車椅子を届けることを途絶えさせることは避けたいと考えています。そのためには、送付資金が必要になります。当会は会員の皆様の会費と団体や企業及び個人からの寄付で活動を行っています。しかしながら、ここにもコロナ禍の影響があるのか、集まっている会費や寄付金も例年と比べるとかなり低調な状況にあります。

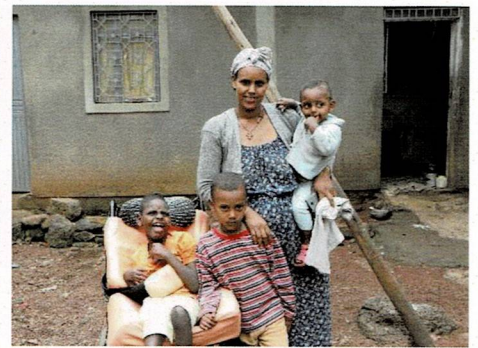
このお願いは、過去に当会を支援して下さったすべての皆様にお送りしています。会費が未納で納付していただける方や寄付をしていただける方は、同封の振り込み用紙を使用して当会に送っていただければ幸いです。厚かましいお願いとは思いますが、当会の現状をご理解いただきたくお願い申し上げます。

2022 年 2 月 吉日

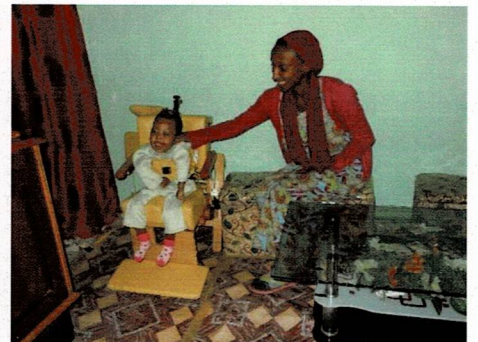
森田祐和

子ども用車椅子を受け取って喜ぶ子どもたち

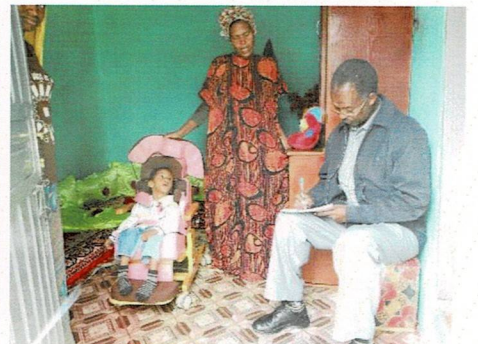
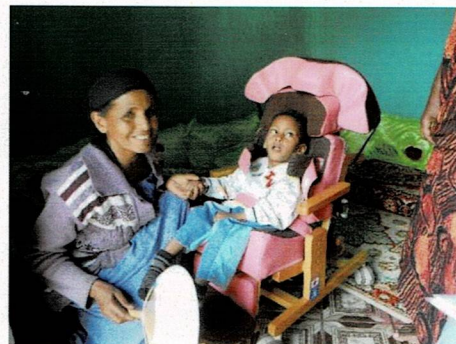
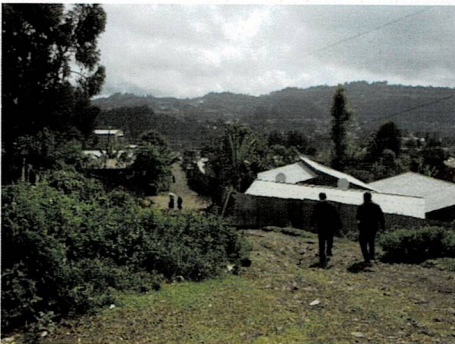
2016年、2018年にエチオピアで行った贈呈式、家庭訪問の様子です。



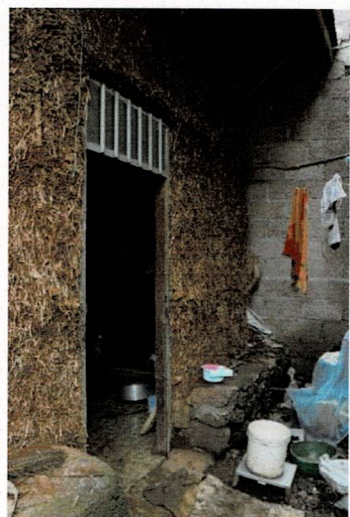
車椅子を手に入れて一番うれしいのはお母さん？



住宅環境は決して良いとは言えません。車椅子を手に入れて喜んでくれます。



住宅があるのは山岳地帯といえるような土地です。タフな車椅子が必要です。
車椅子が届くというのでおばあさんが遠くから駆けつけて、子ども、お母さんと一緒に涙を浮かべて喜んでいました。
現地スタッフが通訳して、子どもの障がい の程度や、家族の生活ぶりを教えてくれました。



家は土壁でできています。決して豊かな暮らしとは言えません。家の中は窓が少ないせいか薄暗く写真を撮ることができませんでした。

車椅子が来るまでは、このように膝を抱えて寝たきりの状態でした。車椅子が届いたのでこれからは外に連れ出して外気に触れさせることができるとお母さんが喜んでいました。

貧困を背景とした寝たきりの肢体不自由の子どもたちは世界中に多くいます。エチオピアをはじめ多くの国の子どもたちやその家族が、今でも当会から車椅子が届くのを待っています。